

京都府
指定
文化財



冨山1号墳出土 人物埴輪
(京都府立山城郷土資料館蔵)

古墳時代

宇治市南部から城陽市北部にかけての丘陵や扇状地上には、古墳時代をとおして100基以上の古墳が築造されました。これらをまとめて「久津川古墳群」と呼びます。近年の発掘調査成果として芝山古墳群や、今年度に新たに京都府指定文化財に指定された冨山1号墳出土品などを紹介します。



芝山古墳群出土
船載方格規矩八咫鏡
(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター蔵



芝山古墳群出土 蛇行剣
(公財)京都府埋蔵文化財調査研究センター蔵

京都府
暫定登録
文化財

城陽市
指定
文化財



大將軍神像(巨椋神社蔵・当館寄託)

城陽市
指定
文化財



阿彌陀如来立像
(念佛寺蔵)

平安時代

平安京と南都（奈良）を結ぶ中間地点にあった城陽市域は、平安時代の文学作品に地名が出てくるほか、貴族の日記などに道中の景色として登場します。市域を南北に通る木津川と街道（奈良街道）を利用する旅人の間に、方角を司る大將軍への信仰が生まれ、その過程で制作されたと考えられるのが巨椋神社の大將軍神像です。人々が行き交う交通の要衝である城陽市域に伝えられた祈りの文化財を紹介します。

江戸時代

当時の城陽市域には、12の村が存在しました。そのうち、長池は京都と奈良を結ぶ大和街道の宿場町として大いに賑わいました。江戸時代中後期には、さまざまな文化活動が繰り広げられ、各地との交流も活発になりました。

城陽市の文化財を通して江戸時代の歴史や文化について紹介します。



国家講看板



神楽講看板

参詣講看板(中川憲一氏蔵)

京都府
登録
文化財

旅籠松屋関係資料 1,283点のうち



神明講杯



日丸講杯

参詣講杯(中川憲一氏蔵)



京都参詣講印鑑札
参詣講印鑑札(中川憲一氏蔵)